令和３年度　朝来市立大蔵小学校　学校評価

年度末はこの様式にて提出してください。

※文書表現で記入してください。

学校教育目標

夢や志をもって、
　自立して未来を担う大蔵っ子の育成

総合的な学校関係者評価

・コロナ禍の中、様々な制限や負担がある中、落ち着いた学校運営ができている。
・先生方は、子どもに寄り添い、また、個々の個性を生かす指導ができている。
・現在の学校運営方針を尊重し、「強く　明るく　のびのびと」の校訓実現に向けた学校運営に取り組んでほしい。

自己評価　　達成状況（Ａ：達成している　Ｂ：概ね達成している　Ｃ：あまり達成していない　Ｄ：達成していない）

	評価の観点		達成状況	学校の取組状況・今後改善すべきこと	自己評価の妥当性 （評価項目ごとの学校関係者評価・意見等）
学校運営	地域とともにある学校づくり	家庭や地域の人々への情報発信	A	○学級通信や学校だよりなどで学校の様子や取組を知らせることができた。 ※ホームページは学校の様子がわかる写真などの掲載に取り組みたい。 ○学校公開(授業参観)は感染対策に努め実施し、工夫してた。 ●新型コロナの影響で授業参観を2回取りやめ、運動会が無観客となり、学級懇談会も実施できなく残念だった。 ※昨年度の反省を踏まえて今年度の改善を図るが、学級懇談会は極力実施したい。	・保護者アンケート、児童対象アンケートなどを見ても、先生方の取組が理解されている。 ・これまでの方針を尊重した来年度の学校運営方針を了承する。 ・見やすく楽しいホームページへの工夫を希望する保護者意見があったので、改善を図っていきたい。 ・自己評価の生徒指導面で綿密な情報交換がなされていることが表れ、先生方の日々の取組で子どもたちにとって望ましい環境が整えられていることが見える。 ・子ども達のアンケートに「先生がわかりやすい授業をしている」への高い評価をしているので、引き続き、丁寧で質の高い授業を行ってほしい。 ・読書の課題について、数字に表れないとしても意識していることが価値があるし、紙からの情報は貴重であるので、継続して取り組んでほしい。 ・校地内にある「交通公園」の認識が変化してきている。意義や使用方法を再確認する必要がある。 ・コロナ禍の中で子ども達に元気や覇気がないように感じる。子ども達に元気に活動したり発散したりすることを考える必要があると感じている。また、例え小さな声であっても、子どもは「元気に」発言してほしいと思っている。
		オープンスクール（学校公開）など住民参加の教育活動の推進	B		
	生徒指導	豊かな集団生活が営まれる学級づくり	A	○「生活指導委員会」を核とし、6年生のリーダーシップで落ち着いた学校生活が送れた。 ○各学級は安定した学級経営が行われており、専科など担任外の授業にも計画どおり取り組めている。 ○毎月の「児童アンケート」、職員間の円滑な人間関係により、情報交換が進み多くの目で児童を見守れた。 ○PTA教育講演会では食育を、ネット関係に対しては、全校生を2つに分け南但馬警察署の講話を、また、5年生対象に「赤ちゃん先生」事業を実施するなど、昨年度よりも改善を加えて実施できた。 ○落ち着いた学校生活につながる生活指導を今年も全職員で振り返ることができた。「よい指導」「望ましい関わり」等が次年度に財産として引き継ぐことができた。 ※警察を招いての講話は継続すべきと考えるが、人数規模や方法などさらなる工夫を行いたい。	
		児童生徒の内面理解を図る指導の工夫	A		
		いじめ、不登校、問題行動、ネットトラブル等への適切な対応	A		
	危機管理体制の整備	マニュアルの点検・見直し	B	○教職員による毎月の「安全点検」が確実に実施でき、可能な限りの改善が実施できた。 ○年間3回の避難訓練も確実に実施できた。 ○「避難所運営マニュアル」の見直し、「引き渡し訓練」も実施でき、在校時の警報発令に対応できた。 ※避難訓練、引き渡し訓練は毎年実施するとともに、職員で予めシミュレーションすることも継続したい。	
		地域課題に応じた防災、防犯教育の実施	B		
	特別支援教育	インクルーシブ教育の推進、校内の指導体制、個に応じた指導	A	○個別の指導計画や個別の教育支援計画などに全教職員で取り組むことができた。 ○「授業のユニバーサルデザイン化」に取り組み、講師招聘研修も実施できた。	
	安全安心に過ごすことができる学校づくり	新型コロナウイルス感染症対策	B	○基本的な感染対策に取り組むとともに、市からの予算を有効に使用することができた。 ○次年度につながる対策も視野に入れて物品購入するなど、見通しをもって対応することができた。	
	あさごドリームアップ事業	特色ある学校づくり	B	○大蔵地域自治協議会のご支援のもと、地域に根差した体験学習が実施できた。	
教育課程	自ら学び自ら考える力の育成	主体的・対話的で深い学びの視点に立ち情報活用能力育成を含めた授業改善、授業のＵＤ化の推進	B	○デジタル教科書の実証事業の指定を受け、市内で唯一、全児童が算数のデジタル教科書を個々に使用でき、指導者としての研究にも対応できた。 ○年度当初に和田山地区の「授業のＵＤ化」に取り組む内容を確認し、年間をとおして取り組むことができた。 ○ＩＣＴの進化に伴い、本や辞書による学びの大切さも取りあげられる中、「言葉集め」などで、各自が辞書を引く取組を今年も全校生で実施することができた。 ●児童個々の鉛筆の持ち方や正しい学習姿勢など、基礎・基本を支える部分の改善を、次年度は学校全体で取り組みたい。 ●道徳科の授業や評価を改善するため、次年度はこれらに関する研修を盛り込みたい。 ●性に関する指導について、さらなる工夫を図りたい。 ○総合的な学習の時間では、大蔵地域自治協議会をはじめ外部講師を招き、昨年度以上に地域に愛着や誇りを持つ教育活動が実践できた。	・授業の中でも先生方が一人一人を大切にされていること、地味でもコツコツと取り組んでもらっていて嬉しかった。今後も継続してほしい。 ・タブレット等で指導の工夫が図られているし、多様な授業を行っていることも分かったので、今後もよい面を継続してほしい。 ・自己評価で道徳教育の研修を行いたいということなので、課題改善に向けぜひ取り
	基礎・基本の定着と個に応じた学習指導の充実	指導内容・指導方法の工夫改善、評価方法の創意工夫	A		
	道徳教育	授業研究の充実と指導の工夫	B		
	総合的な学習の時間	全体計画に基づく工夫改善	B		
課題教育	人権教育	人権尊重の精神の育成	A	○新型コロナに係る誹謗中傷の防止について、学校だよりや全校朝会などで何度も指導することができた。 ○新型コロナ対策をして「じろはったん集会」が実施できた。また、集会だけでなく、10月を思いやりややさしさを考えたり実行したりする月間と位置づけ、全校的に取り組むことができた。 ○「じろはったん集会」の持ち方を工夫する中で、全校生が親子で考えた「人権標語」の代表作を学年代表が発表する場面を設け、人権尊重に対する意識の高揚が図れた。 ○昨年度の反省を踏まえて様々な体験学習が実施できた。 ●まん延等防止措置の影響等で、実施できない体験学習もあり、さらなる工夫で実現を図りたい。 ○どの学年も給食指導と授業に朝来市の学校栄養教諭を招聘することができた。 ○キャリア教育の根幹として、その学年の学力をしっかりと保証するため、補充学習や各学期のめあてを表示するなど、全校生で取り組むことができた。	・子ども達のアンケートの「先生は決まりを守ることをわかりやすく教えてくれる」や「先生は命の大切さやルールについて教えてくれている」など、高い評価となっている。一人一人を大切にした学級経営を継続してほしい。
	体験活動の充実	自然学校、トライやる・ウィーク等を含めた体験活動の充実	B		
	食育の推進	栄養教諭と連携した食育の推進	A		
	キャリア教育	進路選択能力の育成・社会的自立に必要な態度や能力の育成	B		
その他	・地域とともにある学校づくり ・ ・		B	・新型コロナへの対応を図りながら「給食を食べる会」を自治協と共同で計画した一回りを終え、二回り目に入ることができた。校舎を案内したり、子ども達の様子を参観いただいたりして、学校への興味や関心を持ってもらえた。また、運営協議会で学校への働きかけの方向性を定め、一部実践にこぎつけたので、部会活動を拡充したい。	・地域講師を使ったラジオ体操や体育の活動もコミュニティースクールの取組の中で一緒に考えていきたい。